

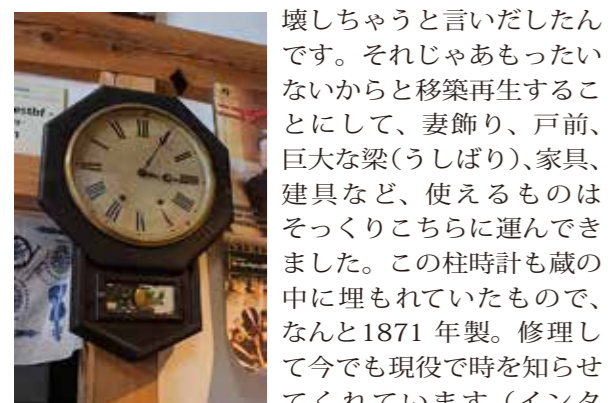


シリーズ【オーナーズボイス】第15回 - 千葉市・A様 前

よくぞ残っていてくれたって、ご先祖様に感謝です。



この家は、長野県飯田市の南、静岡県との県境近くの下伊那郡阿南町南條、最寄り駅でいうとJR飯田線・温田(ぬくた)駅、秘境駅ランキングでは常にナンバー 1、2 を争うようなところに120年前に建てられたものです。祖父母が住んでいましたが、10年ほど前に祖母が亡くなり、空き家になってしまいました。蔵は以前に屋根を修理して比較的良好な状態を保っていたんですが、父がもう



壊しちゃうと言いだしたんです。それじゃあもったいないからと移築再生することにして、妻飾り、戸前、巨大な梁(うしばり)、家具、建具など、使えるものはそっくりこちらに運んできました。この柱時計も蔵の中に埋もれていたもので、なんと1871年製。修理して今でも現役で時を知らせてくれています(インタビューの間、ずっとチクタク、チクタクと正確に動いていました)。

初めは男の隠れ家みたいな趣味の家にしようかなと考えていました。

3年ほど前でしょうか、千葉で民家協会の見学会があり(注:民家フォーラムイベント)、会員として参加したんです。その時案内してくださったのが保川さんで、場所は笠森観音でした。その後、長柄町にある翠州亭で食事をしたんですが、そこも旧スイス大使館を改築した古民家でしたね。保川さんとお会いするのはこの時が初めてで、このイベントの後すぐ協会に移築再生の相談に行きました。初めは住もうとは考えていなくて、趣

味を楽しむだけにしようかなと思っていました。でも、実際に建てようとなった時、せっかくだし、趣味だけで使うのはもったいないと思い直して住まいになりました。実は私、趣味でアンサンブル(合奏=フルート)をやってみて、今はこの家にアンサンブルの仲間を呼んで演奏しています。今座っているこの場所にみんなで座って演奏するんです。仲間内だけの演奏会ですね。

民家再生願望がありましたので歳とともに焦りがあって・・・

私が民家協会に入会したのは民家に興味があったのと、自分でも民家を再生して住んでみたいという希望があったからなんです。人生50を過ぎるとできるうちにやっておかないと間に合わなくなっちゃう。当時は時間がないってほんとに焦ってました。こうして再生しちゃいますと、なんかフア〜んとしちゃうんですけど(笑)。例えば、この蔵なんかほんとに理想的なものが残ってくれました。ご先祖様に感謝ですね。長野から移築してここに再生、出来上がるまでに1年以上という結構な時間がかかりました。その間、保川さんもいろいろな部分で苦労されていたみたいです。例えば屋根の長くて、太くて、重たい棟材、牛梁っていうんだと思うんですが、納めるのに大変だったみたいです。

保川さんはご苦労のようでしたが、実に快適な住み心地です。

移築することにして、現地で解体し、ここに運んで来た時に初めて思ったことは、本当にできるかなって。距離もあったし、輸送も大変だったので不安な気持ちが入り混じってました。現地での解体は、飯田市に民家協会の方がいらしてその方



か、壁がかなり分厚くて、断熱効果はかなり高い

ですね。夏涼しくて、冬もそんなに寒くはありません。去年の夏はクーラー使わなかったんです。扇風機を回すぐらいで過ごせちゃう。風通しもいいですね。それと屋根の構造。屋根は置き屋根っていう構造なんだそうです。天井の上に屋根が置いてあるんです。だから2階もそんなに暑くない。最初はこんな構造、意味あるのかななんて思いましたが、あ、違うんだなあと思えました。夏、普通は屋根裏って暑くなりますが、この家はそうでもないんです。(次号に続く)



保川久夫フォトギャラリー



「命をつなぐ道」

北海道の川には秋になると鮭が遡上してきます。しかし産卵場所までは過酷を極める道が待ち受けています。急流や段差だけでなく、捕食者たちも自らの命のため川に入り、魚たちに突進していきます。魚たちは逃げまどい急流では次から次へとジャンプを繰り返して上流へ上流へと遡っていきます。ファインダー越しに見つめると、黙々と試練を乗り越えるその姿は神々しくさえ見えてきて、シャッターを押す手にも力が入ります。(保川久夫)



夏に終わりを告げるお祭り、本当に賑やかで、楽しい一日となりました。

今年で3年目となる『わいわいお客様感謝祭』を8月26日に開催しました。今年も屋台や包丁研ぎ、木工教室などお子様から大人の方まで楽しめるコーナーを作りました。今年の木工教室は現場から出てくる廃材の材料で作った壁掛け小物棚。小さいお子様でも作れる簡単な物ですが、『ものづくり』の楽しさを感じていただけたのではないのでしょうか?この出会いを通して皆様の暮らしが楽しくなるようなお手伝いをこれからもどんどんさせていただきます!たくさんの方にお越しいただきましたこと、感謝申し上げます。

